



広報いこま

このまちがもっと好きになる

ikoma 3

15日号
2014
No.716



行基

特集

特集

行基

歴史、人、風土。まちにはさまざまの魅力があります。

今回は、生駒の歴史に登場する1人の人物にスポットを当てました。

圓生涯学習課 ☎0743・74・1111、内線646

近鉄奈良駅前の行基像。東大寺大仏殿を見つめて静かにたたずんでいます。





民にも広く食器として普及

-須恵器(行基焼)- (生駒市内各所)
生駒では行基が行った社会事業の顕著な功績は見つかっていないが、須恵器の生産が盛んだった。須恵器は、窯を使い高温で焼く製法で、行基が指図して焼き始めたと伝えられている。



ふるさとミュージアム(山崎町)

重要美術品の墓誌断片(複製品。行基の火葬墓から出土した銅鑄製の墓誌断片。4月に陳列予定)や、行基建立の四十九院の1つ石凝寺(大阪府東大阪市)の瓦など、行基関連の資料を展示

畿内各地に残る、 行基の功績

民を救うため、生涯 強い意志を貫いた僧



灌漑用のため池を改修

-狭山池- (大阪府大阪狭山市)
現存するものとしては国内最古のダム式ため池。行基たちの高い技術力が発揮された。改修を繰り返しながら、現在も下流域の田畑を潤す池として機能している。



多くの民が寄進した瓦

-大野寺土塔- (大阪府堺市)
約6万枚の瓦が葺かれていたとされる土塔。豪族や僧だけでなく、男女を問わず行基に協力した民の名を刻んだ瓦が多数出土(復元、手前は模型)



平城京と恭仁京を結ぶ橋-泉大橋-

(京都府木津川市)
国道24号にある、木津川を渡る橋。現在の橋は戦後に架けられたもの

668年。大化の改新で知られる中大兄皇子が天智天皇として即位したこの年、行基は河内国(現在の大阪府堺市)で生まれました。百濟朝鮮半島(南西部)からの渡来人の子孫だったといわれています。

15歳で出家した行基は、師の道昭から多くのことを学び、深く影響を受けます。道昭は、布教を行いながら多くの社会事業に取り組んでいた僧でした。やがて道昭亡き後、弟子を率いて主に畿内各地を巡り、仏教を広め、重税で日々の生活に苦しむ民を救うために活動しました。川に橋を架けたり、ため池を整備したりといった事業を、今でもボランティアで行いました。

弾圧にも屈しない強い意志

「行基年譜」によると、民のために活動していた行基は40歳のとき、高齡の母を伴い生馬仙房(現竹林寺)有里町)に移ってきます。そして、3年後に母が息を引き取るまで共に過ごし、その後約3年間この地で母の供養を行い、修行に励みました。

ちょうどこの頃(710年)、奈良の平城京に都が移されました。多くの人が納税や労役のために都を訪れましたが、食料も与えられず道ばたで餓死する人がたくさんいました。行基は、そうした人たちが重税の苦しみから土地を逃がれた人たちのために、街道沿いに無料の宿泊所(布施屋)を多く作りました。

社会事業や布教によって行基を慕う人が増えてくると、国は行基たちの行動を押さえ込もうと「小僧行基」と名指しで激しく弾圧します。しかし、行基は圧力に負けることなく、苦しんでいる人々を救い続けました。こうして信者はますます増え、民から菩薩とあがめられるようになりました。国もその影響力を無視できなくなり、78歳のとき、大僧正という僧の最高位を授けることになりました。

母と過ごした生駒を永眠の地に

それと前後して、行基76歳のとき、聖武天皇により「大仏造営の詔」が出され、行基は弟子や民とともに大仏(東大寺盧舎那佛像)の造営に尽力することになりました。そして749年、行基は82歳でその生涯を終えました。菅原寺(現喜光寺)奈良市)で亡くなり、遺言により、母と過ごした生駒の地で弟子たちによって火葬され、埋葬されました。



母を看取り、自らも眠る行基の墓所

竹林寺

・有里町



上▶復興された本堂。本尊は文殊菩薩
下右▶史跡行基墓。一辺約10mの方形の墳丘で国指定史跡
下左▶鎌倉時代の高僧、忍性の墓。行基を慕って社会福祉活動を行い、その遺言により竹林寺にも分骨され、葬られた。

生馬仙房が前身とされる竹林寺。永い歴史の中で荒廃と復興を繰り返して、近年では明治時代、廃仏毀釈(寺院や仏像などが全国的に破壊された)により、同寺も廃寺と化していました。昭和初期に質素な仮本堂が建てられたものの、長年風雨にさらされて倒壊寸前の状態でした。それが行基没後1250年事業として再建を目指し、完成したのは平成10年2月、第二阪奈有料道路が開通した頃でした。寺の復興に中心となって尽力したのは、地元で生まれ育った中尾良蔵さん(故人)。中尾さん夫妻が亡くなられた現在は、地域の人たちが唐招提寺から鍵を預かり、毎月3回、参道や境内の掃除、花の手入れなど、ボランティアで管理をしています。代表の柴田洋子さんと森妙子さんに話を聞きました。



本堂にある行基菩薩坐像(複製。実物は唐招提寺)



左▶竹林寺にあった、生駒南小学校の前身「開明舎」。教育令の公布により明治7年誕生。
上▶生駒南小学校の沿革誌。開明舎の記述から始まっている。



「毎月1日、10日と20日にボランティアで掃除をしています。メンバーは高齢者ばかり。若い人にも手伝ってほしいと思っています」と話す柴田さん(右)
「復興時、広報にまで『竹林寺を訪ねてみませんか?』という記事を見て訪れ、中尾さんに出会いました。境内の清掃が大変と伺い、手伝うようになりました」と話す森さん(左)



発見された結界石(4基が現存)。僧たちが学ぶ境内と俗界を区切る標石で、往時は寺の四方と入口に据えられていた。



上▶清掃を手伝うのは、竹林寺に心を寄せる人たち、およそ15人。きっかけは「寿大学で竹林寺の話聞き、見てみようと思って来てから」「宝山寺を訪れた帰りに寄ってみたら、法要に誘ってもらった」などさまざま。「人のためになるなら」「健康に良いし、自分のパワースポット」など、それぞれの思いで手伝っている。



下▶行基が亡くなった2月2日にちなみ毎月2日、唐招提寺長老(竹林寺住職兼務)により、本堂で法要が行われている。



竹林寺(律宗)
問い合わせは、毎月1・10・20日の9:30~11:00に同寺(有里町211-1、☎0743-77-8030)



市観光ボランティアガイドの会の案内で、竹林寺や周辺史跡を巡ってみませんか?

【生駒谷コース(費用無料)】

ガイドのメンバーがごいっしょして、南生駒駅~近鉄一分駅まで約6.2kmのコースにある見どころを解説します。

生駒市観光協会(経済振興課内、☎0743-74-1111、内線323)

「中尾さんは子どもの頃、寺のことをあまり知らないまま境内で遊び回っていたと話しておられました。退職後、何か由緒がありそうだと調べ始めてから、竹林寺の歴史にのめり込み、一途に復興に尽力されました」
その過程では、歴史の解釈の違いなどでさまざまな苦労があったそうです。そして、唐招提寺や関係者たちと力を合わせて復興にこぎつけました。

「行基を慕う僧たちが悟りの道を学ぶ学習の場だったんですね」
竹林寺の境内には行基の墓以外にも同寺で修行を重ねた鎌倉時代の僧、忍性にんじやうなど行基を慕った僧たちの墓があります。
「行基の生きた時代は、きつと穏やかな風土で、すぐそばを水のきれいな竜田川が流れ、人を救うための薬草も採れたのではないかと想像しています。残念ながら行基の母の墓はまだ見つからないのですが、いつか見つけられたらと願っています」

行基の思いがふれる竹林寺

竹林寺は、行基が母に孝行を尽くし、母が亡くなった後も冥福を祈って供養を行った地。

「行基の生きた時代は、きつと穏やかな風土で、すぐそばを水のきれいな竜田川が流れ、人を救うための薬草も採れたのではないかと想像しています。残念ながら行基の母の墓はまだ見つからないのですが、いつか見つけられたらと願っています」

地域の子どもたちが通う生駒南小学校の沿革誌には、竹林寺で行った学びの場(開明舎)が、同小学校の前身と記されています。
「生駒南小学校に通う子どもたちに、竹林寺は誇りに思える場所だと伝えていきたいですね」
竹林寺には、行基を偲んで全国から人が訪れます。庫裡に備え付けられている雑記帳には、「やっとお参りできました。きれいにしてくださいありがとうございます」といった言葉が並んでいました。
「ここは行基が愛した場所です。みんなの幸せを願って活動した行基の思いが伝わる場になればいいと思っています」

まちの歴史を知ること 心も暮らしも豊かに

行基は、全国各地にゆかりとされる地が点在し、時代を超えて人々の心をとらえた人物でした。行基と生駒の歴史について、生駒市文化財保護審議会会長の今木義法さんに話を聞きました。

行基が愛した地、生駒

「行基は自分を生んでくれた母を生駒で看取り、また自身も葬られています。つまり、行基の生涯の始まりと終わりに関わるのがこの地に結びついているんです。生駒はよほど愛着のあった土地なのでしょう」

なぜ、行基が生駒に愛着を持っていたのか、それを示すものは今なお明らかになっていません。

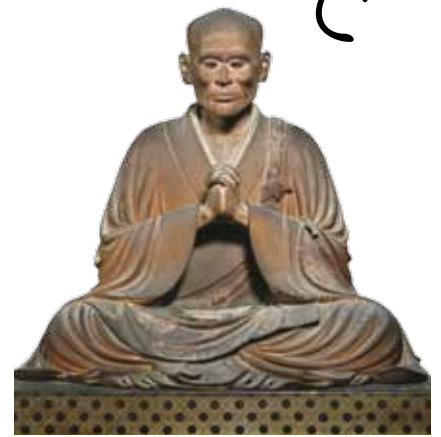


Profile ●いまいよしのり／1933年大阪府生まれ。生駒市文化財保護審議会会長、生駒民俗会会長などを務め、生駒の歴史文化に造詣が深い。

「中世では東大寺の僧、凝然が『竹林寺略録』で生駒の地形を、中国の五台山と遜色ないと褒め、霊的雰囲気があると述べています。近世では、宝山寺を開いた湛海律師が、生駒山の麓を通っただけで、神仏の霊が漂っていると直感的に感じています。さらに現代では、宗教社会学の会（関西圏の宗教研究者を中心とする研究会）が生駒山の調査を行った際、生駒山は『大都會の近くにありながら、四六時中、不思議な冷気を感じさせられる土地』と感想を述べています。つまり、古くから現在まで一貫して生駒山には霊的な雰囲気が宿っていると人々は感じていました。行基も、そうした雰囲気に惹かれたのではないかと思っています」

大仏再建に尽力した公慶と生駒の縁

東大寺大仏殿は兵火により2度の焼失にあっています。2度目の再建に尽力したのが、江戸時代初期の僧、公慶でした。現在見ることでできる大仏はこの時に復興されたものです。公慶は、戦国時代、高山地域を支配した鷹



公慶上人坐像(写真提供:奈良国立博物館)

山氏の最後の当主、頼茂の息子でした。

「戦国時代の焼失以降、100年近くに渡って、大仏も傷んだまま雨ざらしになっていました。公慶はそれを見て悲しみ、寝る間も惜しんで大仏と大仏殿を復元されたのです。大仏造立の中心人物として関わった行基、そして再建に尽力した公慶。2人とも生駒に深い関わりがある人物なんですよね」

地域の歴史を知ることの意義とは

普段何気なく見ている文化財も、その歴史を知ることによって新たな発見があり、興味が湧いてきます。生駒は古い歴史を持つまちです。

「『我がまちの歴史を語れ』と言われて、自分が何も知らないことに愕然としたという話を聞いたことがあります。地域の歴史・文化に関心を持ち、知ることでも暮らしも豊かになるのではないのでしょうか」

高山と公慶



法楽寺・高山町6601
東大寺大仏殿建立にあたり、西北に位置するこの地に王城守護のため、聖武天皇が行基によって開創させたと伝えられる。

公慶は、父頼茂が身を寄せた丹後国宮津(京都府)で生まれ、3歳のときに父と高山に戻ってきました。そして、13歳で東大寺に入り、大仏の復興を固く心に誓いました。高山にある法楽寺には、公慶が大仏修復の成就を祈願した立願状が残されています。



高山茶釜 ▶室町時代、鷹山宗初が創始者といわれる茶釜づくり。公慶の父、鷹山頼茂の代で鷹山氏は没落しますが、このとき16人の家臣が技を引き継ぎ、今現在まで高山地域に伝えられています。
圏経済振興課(☎0743-74-1111、内線323)

749年。3年後に開眼供養を迎えた大仏の完成を見ることなく、行基は82歳でこの世を去りました。

行基の思いは時代を超えて多くの人々の心をとらえ続けてきました。行基は今、生駒のまちを見下ろす生駒山の麓に静かに眠っています。本市には、社会の役に立ちたい、という思いで積極的にボランティア活動をしている人がたくさんいます。行基の志は、今なおこのまちに脈々と受け継がれています。

